

## 団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

<b>団体/会社名</b>	(市) ぱん・ぱん・ぱんぷきん		
<b>代表者</b>	松浪 智子	<b>担当者</b>	松浪 浩之
<b>所在地</b>	〒080-1189 北海道河東郡士幌町中士幌西2線80-4 TEL:01564-7-4030 FAX:01564-7-4507 E-mail:panpukin@cpost.plala.or.jp		
<b>設立の経緯 ／沿革</b>	<p>中士幌児童ステーションとぱん・ぱん・ぱんぷきんが協同開発した子育て支援カー「ぱんぷきん号」の完成と同時に有珠山が噴火し、支援カーの最初の仕事が被災地の子ども達の支援でした。その時の呼びかけに応じ、ボランティアとして集まった面々が、支援カーを取り巻くサポーターとして結成したのが会の始まりです。支援カーによる巡回子育て支援活動は、その後、学校週5日制の移行に伴う土曜日対策、巡回児童館活動へと発展し指導員として活動しています。会の結成以来、活動のもう一つの柱は、畑作に由来する地域水環境への取り組みでした。緑化事業に始まり、河川の浄化運動、サケの幼魚の放流事業、地域環境レンジャーへと進み、「環境保護なくして子育てなし」の理念のもと、子育て及び環境学習を目的に5,100㎡の敷地に「遊～遊～村」を建設し、築90年の古民家を移築し、村の中核施設として「ふるさと子育て伝承館」を拠点に遊～遊～村という「るつぽ」で子育てと環境学習が融解し、融合した事業をおこなっています。現在、村づくりには、小学生276名、大人72名が村人として住民登録して村づくりに励んでいます。さらに、地域の歴史と文化を伝える50数年前のグランドピアノを修復し「ふるさと子育て伝承館」に備え付け「ピアノ物語」の創作アートに取り組んでいます。</p>		
<b>団体の目的 ／事業概要</b>	0歳から青年期までの一貫した子育て支援と子ども時代から一貫した環境保護及び環境教育を実施し、生まれて良かった、住んで良かったという、ふるさとづくりを会の目的とする。		
<b>活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)</b>	<p>①東京23区がスッポリ入ってありあまる士幌町の子育て支援を稼働するために、高規格車、子育て支援カーを開発し、そのもてる機動力と広域展開力で全町の巡回子育て支援体制を確立した。</p> <p>②平成14年度から導入された、学校週5日制により、土曜日に浮遊する小学生を対象に、全町8小学校区を巡回する移動児童館「巡回児童ステーション事業」を開始し、年間36講座、1講座平均60名の事業を実施している。</p> <p>③平成15年より地域環境学習センター「遊～遊～村」を5,100㎡の敷地を住民登録してくれた村人と共に協働して建設中。</p> <p>④平成16年より地域固有の畑作に由来する水環境の問題を解決する「親水塾」を開始。</p> <p>⑤平成17年より地域水環境問題の源となっているアグリの改革を目指し低農薬、有機農法の「はたけ塾」を開始。</p> <p>⑥平成19年に雪氷と太陽光発電をハイブリット化させた、地産地消の冷熱エネルギーを利用した「ゆきんこ冷房システム」を開発。</p>		
<b>ホームページ</b>			
<b>設立年月</b>	2002年 4月	*認証年月日(法人団体のみ) 年 月 日	
<b>資本金/基本財産 (企業・財団)</b>	43,000,000円	<b>活動事業費/ 売上高(H17)</b>	円
<b>組 織</b>	<p>スタッフ/職員数 23名 (内 専従 1名)</p> <p>個人会員 23名 ; 法人会員 名 ; その他会員(賛助会員等) 2名</p>		

政策のテーマ

グリーン・フロンティア

■政策の分野

- ・⑧社会経済のグリーン化
- ・⑩環境、パートナーシップ

■政策の手段

- ・②制度整備及び改正
- ・⑧環境教育・EDSの推進
- ・⑪地域活性化と雇用

団体名：ぱん・ぱん・ぱんぷきん

担当者名：まつなみ こうし  
松浪 浩之

■キーワード	限界集落	用地買収	カーボンオフセット	未来への投資	公的資金の投入と返済
--------	------	------	-----------	--------	------------

① 政策の目的

未曾有の経済状況化、国の新しい経済政策としてグリーンニューディールを目指す上で、山間地限界集落の維持という政策を転換し、維持に要する後向きのコストを、限界地を買い上げ、これまで整備した道路等の社会インフラを活かし、かつて繁茂してたであろう豊かな森を創る方向に振り向けることによって、カーボンオフセットを活かした低炭素社会を目指し、社会のグリーン化による新たな雇用を創出し、ひいては、国民の健康の増進に寄与することを目的とする。

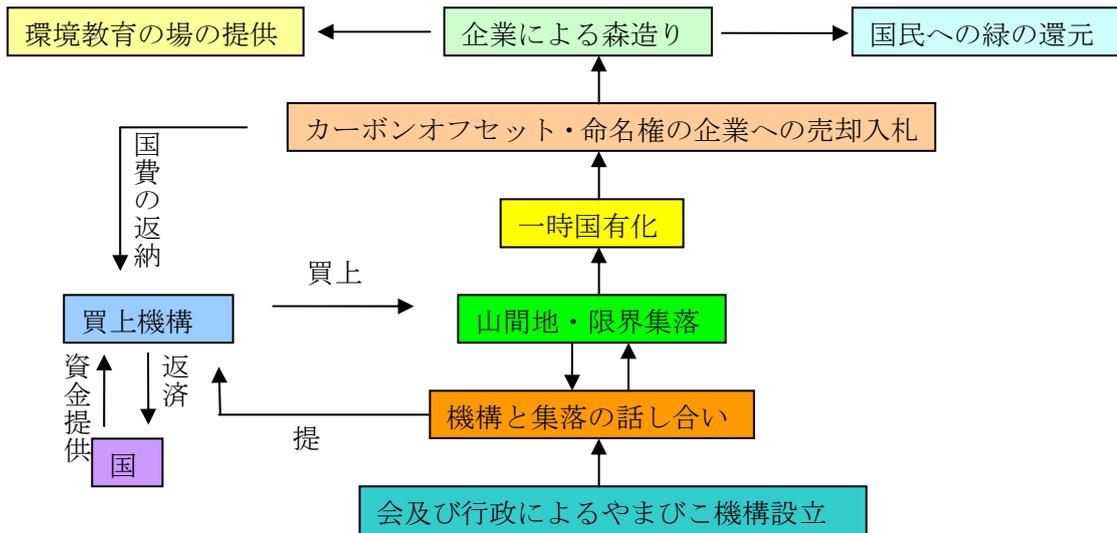
② 背景および現状の問題点

歴史を巻戻してみると、山間地に人の手が入ったのは、その多くは食料の自給自足経済の必要性が生み出した産物で、その非生産性と住居不適正を温存させてきたのは戦後の農政と変わろうとしない社会構造です。しかし、限界集落を点滴によって延命させようという政策は早晩行きづまると思われます。現行の未曾有の経済状況をチャンスととらえ、限界集落の維持という後向きの発想を転換させて、政策的に土地を買い上げることによって、それまで投入した道路等のインフラを活かし、開発前の森に戻すことによって、造林及び森の維持というグリーン雇用を生み出しカーボンオフセットの自給自足と国土の緑化と国民の健康の増進に寄与する。

③ 政策の概要

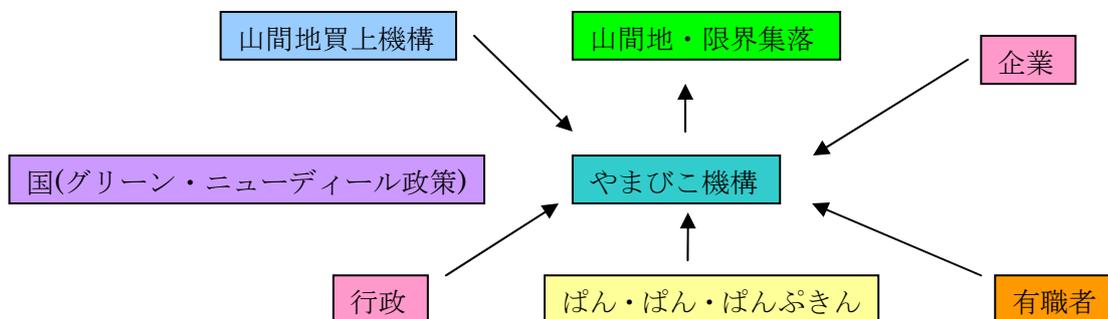
- ① 少子高齢化の洗礼を真っ先浴びる、地方の過疎山間地の限界集落を、コストをかけて維持するという政策を転換し、世界不況の真っ只中にある日本経済の再生の一翼を、限界集落を政策的に買い上げることによって、既存の道路等のインフラを活用し、集落跡地にカーボンオフセットの森を造成し、新たな緑の公共事業を起こす。
- ② カーボンオフセットの自給自足という政策を掲げることによって、国内に於ける国土の緑化による低炭素社会の実現と国民の健康の増進に寄与する。
- ③ 買収に投じた公的資金はカーボンオフセットを必要とする企業に命名権とセットで売却することによって投入した公的資金の返済に回す。
- ④ 過疎山間地からの撤退による森の造成は、限界集落の維持という必要性を失った地域への時間をかけた安楽死的な政策より、緑の増加とグリーン産業の振興・雇用の創出という積極的で前向きな希望のもてる政策となる。
- ⑤ 環境教育の実践の場を提供し、体験的環境教育によって、子ども時代から一貫した環境教育を実現する。
- ⑥ 「グリーン・フロンティア」はグリーンニューディールの一翼を担う政策となる。
- ⑦ その為のモデル地区を選定し、政策実現の可能性を探る。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
国のグリーン・フロンティア政策決定												→
山間地買上機構												→
会・行政によるやまびこ機構設立								→				
予定地の選定												→
グリーン・フロンティア事業の広報												→
カーボンオフセット購入企業公募												→

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）



**⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）**

- ①限界集落の維持という実現の可能性の低い政策を転換し、これから限界集落の維持にかける経費を限界集落の買い上げ費に転換し、跡地に森を造成し、低炭素社会の実現という未来に投資する。
- ②森造りは、持続可能な日本社会を創る為の政策は、国民的コンセンサスがやすく、限界集落を創る者にも大名がた、よりも後国が向かっていく方向が提議できる。
- ③グリーンニューディールという新しいグローバルスタンダードにかなった政策であり、国産のカーボンオフセットの自給自足が可能になる。
- ④カーボンオフセットを海外で購入しても、国民の理解はなかなかられないが、国内であれば企業力が報われる。
- ⑤不況を脱出する為の国内需要を創る政策の1つとして、政策的土地の買収とカーボンオフセットと命名権の売買によって、国費の投入がリターンされる。
- ⑥カーボンオフセットと国民の健康とグリーン産業という雇用の創出は、グリーンニューディールの理にかなっている。

**⑦ その他・特記事項**

世界的経済不況を脱出するには、国内需要を創る必要がある。グリーン・フロンティア事業は、従来の土壌中の公共事業の活用を促しつつ、新事業を起こすことに、この政策の強みがある。

世界不況によって、壊れた従来の経済システムに変わる新しい産業の創出と、よりも国民に過疎地、少子高齢化等の国内問題を認め、環境を第一に国は大きく進むというメッセージを伝えるシンボリック事業になる。